



LS 研究委員会

研究分科会／短期研究分科会

LS研究委員会では、2018年度研究分科会／短期研究分科会の参加者を募集いたします。LS研究委員会のスローガン「Challenging Innovation」のもと、AI、ブロックチェーンなどの最新技術や働き方改革を中心に研究分科会23テーマ、短期研究分科会3テーマを用意しました。多数のお申し込みをお待ちしております。

2018年度活動

参加者募集中

研究分科会

4月から翌年3月まで1年間
原則月1回実施

「先進的ICT適用」や「情報システム部門が抱える課題解決」などについて、問題意識を持ったメンバーが集まり、Give & Takeの精神で共同研究を行い、成果を創出する活動です。その成果を論文としてまとめ、翌年のLS研総合発表会で発表します。1年間の研究活動を通じ、今後の情報システム部門を担う人材の育成も活動の目的としています。

カテゴリ	No.	研究テーマ名
ICT 戦略／ 人材育成	1	働き方改革に情報システム部門が果たすべき役割の研究
	2	AI活用時代における人材スキルの成長方向に関する研究
	3	デジタルビジネス時代における外部データマネジメント戦略研究
	4	データを利活用するデータコンシェルジュ体制の整備と人材育成に関する研究
	5	業務ノウハウの可視化と継承方法に関する研究
技術／技法	6	UXデザインを活用したモバイルシステムの要求定義手法の研究
	7	テスト見積りにおける標準プロセスと手法の研究
	8	エンタープライズアジャイル開発と従来型開発の共通管理指標の研究
	9	AI・OT ^{*1} ・セキュリティ分野で活用が進む大規模データ利活用の研究
	10	エンタープライズデータの利活用の実現に向けたデータ処理技術の研究
	11	ブロックチェーンを活用したシステムの設計開発手法の研究
	12	クラウドネイティブアーキテクチャを採用したSoEの研究
	13	新たな価値を創造するAR/VRの活用方法の研究
	14	グラフデータベース適用範囲の研究
	15	社内業務システムにおけるRPA ^{*2} 活用の研究
管理／運用	16	暗黙知となっている運用業務スキルの継承方法の研究
	17	AIを活用したコールセンターの統計情報の研究
	18	マルチクラウド時代の企業ネットワークの運用管理のあり方
	19	設備と連携する情報システム群を様々なサイバー攻撃のリスクから守る研究
	20	自動化・AI化の過渡期におけるシステム運用部門の人材育成に関する研究
新分野	21	個人情報流通拡大に伴うビジネス活用の研究
	22	マイクロサービス活用手法の研究
	23	デザイン思考におけるプロトタイプング実践方法の研究

*1 OT : Operational Technology *2 RPA : Robotic Process Automation

(上記のテーマ名は変更される可能性があります。正式なご案内をご覧ください)

過去の研究成果は ▶ <http://jp.fujitsu.com/family/lskan/activity/work-group/> 「過去の活動内容」をクリックしてください。

短期研究分科会

4月から9月まで半年間
原則月1回実施

No.	研究テーマ名
1	情報システム部門の「働き方改革」 ～いかにして「ワーク・ライフ・バランス」を実現するか～
2	適用分野の問題特性に適したディープラーニングモデルの研究
3	社内業務におけるチャットボット活用の研究

(上記のテーマ名は変更される可能性があります。正式なご案内をご覧ください)

タイムリーで実践的、先進的なテーマに対し、市場動向の調査や企業の取り組み状況などの情報を共有します。参加メンバーによる意見交換、調査、検討に重点を置き、調査報告書をまとめた後、成果報告会にて活動結果を発表します。1年間の研究分科会と同様に、富士通グループよりテクニカルアドバイザーが活動をサポートします。

過去の研究成果は ▶ <http://jp.fujitsu.com/family/lskan/activity/s-work-group/> 「過去の活動内容」をクリックしてください。

2017 年度活動報告のご案内

マネジメントフォーラムは、業種業態を超えたリーダー同士が日々抱えている課題を共有・議論することで、これまでにない気づきや明日へのヒントを得られる場として活用いただいています。LS 研セミナーは、先進的な取り組み事例やパネルディスカッションを通じて、情報システムの企画 / 構築 / 運用や ICT 戦略について情報交流を行う場です。

マネジメントフォーラム

リーダー層 / マネージャー層向けイベント
年 2 回実施

【テーマ】

「ビジネスに貢献する ICT 部門を目指して」
- 最前線のリーダーが、今、何に取り組むべきか -

於：湘南国際村センター（葉山）

第1回は2013年度から継続のテーマで、7月13日（木）から1泊2日の合宿形式で開催されました。メンバー 13名、アドバイザー（LS研幹事）2名の体制で、現状分析から課題を抽出し、解決策や具体的施策といったアウトプットを2つのグループが互いに発表し合い、最後にICT部門がビジネスに貢献するために自分ができることを決意表明しました。

第2回は、2018年2月に1泊2日の合宿形式、継続テーマにて開催予定です。



参加者コメント

「冒頭に情報提供として実際の成功事例の紹介があり、考えるヒントをいただいた」「実際のグループ討議では、全体的には組織の課題抽出、課題整理、目指したい姿の具体化、実現手段の考察、といった確立された方法での討議により、抱えていた課題に対する施策が明確になった」「副次的に他業界の事情や解決策がイメージでき、また、新技術の利用等、情報交換ができた」「これからもっと弊社のメンバーを参加させて、育成の場としたい」

LS 研セミナー

ICT部門の部長～リーダー層向けイベント
年 3 回実施

【第2回：テーマ】

ICTを活用した働き方改革

於：東京・大阪

事例紹介やパネルディスカッション、デモ展示などを行うLS研セミナー。第2回は、11月22日（水）に大阪、11月28日（火）に東京で開催。東京海上日動システムズ様、富士通グループからの事例紹介および2017年度LS研ICT白書のご報告が行われました。ご参加の皆様からは、ICTを活用した働き方改革の具体的な取り組みを知ることができたとの声を数多くいただきました。

第3回は2018年2月21日（水）に開催予定です。



参加者コメント

「ツールを使えば働き方改革が推進するという講演ではなく、どのような課題があってそれをどうやって解決していくかという事例を知りたかったため、期待していた内容と一致していた」「富士通の社内実践の成果をお客様に提供するため、先んじての取組が聞けて、参考になった」「気になる話題がテーマになっており、短い時間で必要な情報が得られた」「示唆が含まれたセミナー構成で参考になった」

情報化調査 LS研 ICT白書

会員企業における
ICT 活用に関する調査

LS研 ICT 白書は、LS 研究委員会の会員企業における ICT の活用の現状と今後を把握することを目的に調査した報告書です。

Give&Takeの精神に則り、調査にご協力いただいた会員の方のみに配布をしております。2017年度も多くの会員の方々にご回答いただきまして誠にありがとうございました。

今年度の ICT 白書では、従来の調査テーマに加え、会員団体における機械学習・人工知能技術 (AI) 活用の実態調査というテーマを新規に設定致しました。

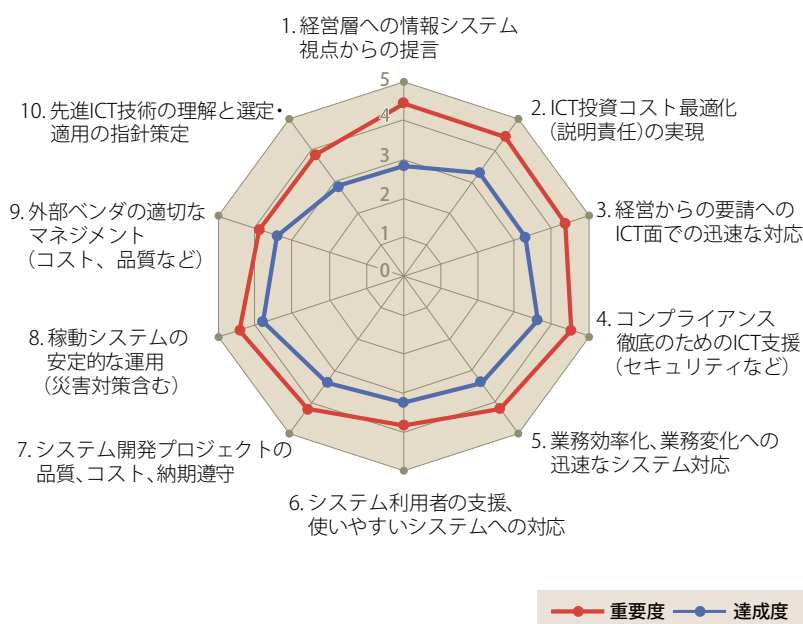
情報システム部門の 役割と機能

情報システム部門の役割として最も重要視されているのは、「コンプライアンス徹底のためのICT支援」、次いで「経営層への情報システム視点からの提言」「ICT投資コスト最適化の実現」「稼働システムの安定的な運用」となっている。

また、重要度と達成度の差分の傾向は、「システム利用者の支援、使いやすいシステムへの対応」「外部ベンダの適切なマネジメント」など従来から情報システム部門に求められている役割・機能に対する達成度は高い。

一方で、「経営層への情報システム視点からの提言」「ICT投資コスト最適化の実現」などの役割・機能については情報システム部門として対応しきれていない意識が強いと考えられる。

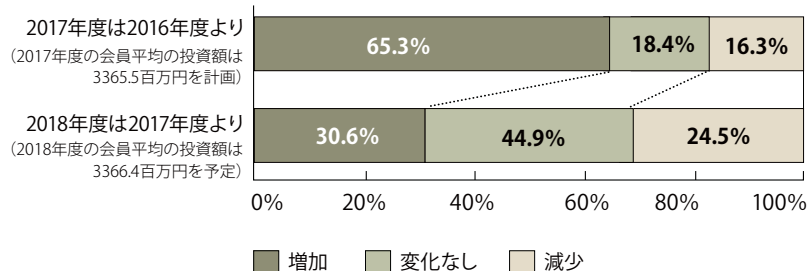
図表 1. 情報システム部門の役割と機能に対する重要度と達成度の認識
(有効回答：116 会員)



ICT 投資状況

2017年度は2016年度よりICT投資額を「増加する」が「減少する」を大きく上回っているが、2018年度は2017年度よりもICT投資額の割合は、変化なし～減少傾向にある。

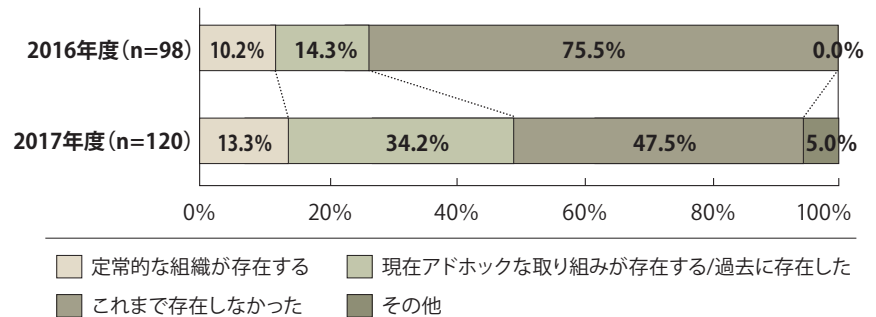
図表 2. ICT 投資額の増減傾向 (有効回答：46 会員)



人工知能利用の 実践事例の有無

「これまで存在しなかった」が最も多く47.5%、続いて「現在アドホックな取り組みが存在する／過去に存在した」が34.2%となっている。

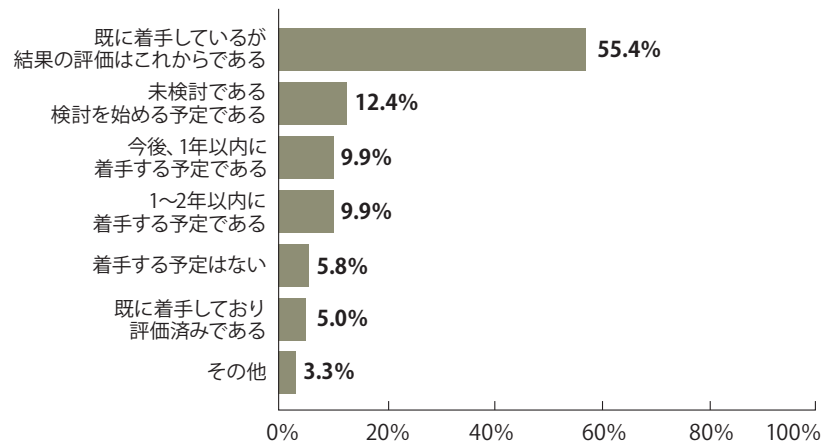
図表 3. 人工知能利用の実践事例の有無 (有効回答：120 会員)



ワークスタイル改革への 取り組み状況

「既に着手しているが、結果の評価はこれからである」が最も多く55.4%、続いて「未検討である、検討を始める予定である」が12.4%となっている。

図表 4. ワークスタイル改革への取り組みの状況 (有効回答：121 会員)



推進体制における 情報システム部門の役割

「ワークスタイル改革の施策立案に対して、情報技術の活用を提案する」が最も多く73.8%、続いて「ワークスタイル改革に必要なシステムの企画と実装」が66.2%となっている。

図表 5. 推進体制における情報システム部門の役割 (有効回答：65 会員)

